

お酒の話

はじめに

百薬の長と言われるお酒、私は一般人なので何でも言えるのですが、正直10歳ぐらいから親の目を盗んで、家に置いてあるお酒を盗み飲みしておりました。そして高校時代は体育会系の先輩の誘いで料亭には月一程度お供して。幸い私は中学の時ですら大学生と間違えられるほど更けて見られたので先輩たちも安心して連れて行ってくれたのでしょう。

一応理事会の後の懇親会という名の下で行っていたので、誰も腹が痛まなかったようです。昔は親が現在ほどクレームをしないので、非常に大らかだった気がいたします。

今と違って、料亭には仲居さんと三味線を持った芸者が付きもので、懐石料理に始まるのですが、皆が酔っ払ってくるころから、それまでお酌をしていた芸者さんたちが小唄を唄い始め、続いて先輩たちがそれぞれの生まれ故郷の民謡、軍歌、出身大学の寮歌、応援歌を歌い始めることが多かった気がします。

けれども芸者さんとの話が弾んできた先輩や酒好きな先輩は、「おい出口、なんか歌え！」と言って私に振るのが常だったので、小唄の様な色気のある歌は歌えなくとも各地の民謡や、軍歌、大学の寮歌など家で覚えてきたものを歌ったものです。その当時飲んだのはキンビールかサッポロビール、その後は日本酒だったような気がします。

しかし、船員時代や海外でのフーテン時代が長かったので、日本に帰ってくるまでは、洋酒しか飲まなかったのです。なぜなら当時外国へ輸出された日本酒には防腐剤が入っていて、頭が痛くなった記憶があり、それ以来口にすることが無かったのです。

現在、仕事をしている我々海運関係者にとってお酒の場と言ったら、まずは接待。

海運業界では海運会社間の接触が公正取引委員会によって厳しく制限されているので、最適な場所と言えば公取委から変に勘繰られる事のない個室で、しかも他の海運業者と顔を合わせなくともよい交通に便利な所、且つそれ程高くない所です。

また2次会があり、接待する取引先に女性社員がいる場合は、ブリティッシュ・パブ的なバーやカクテル・ラウンジなどにお連れしてカクテルやウィスキーの水割りなどが良いでしょう。或いはカラオケが好きなお客さんがいればカラオケ店でも良いのです。

要はお客様ファーストです。男同士ならナイトクラブかラウンジもしくはバーでのウィスキーのロックや水割ではないでしょうか。そして場所を予約する場合は相手先に好き嫌いやアレルギーの人がいた場合とかを加味しながら、年長者が多い場合は寿司割烹や刺し身等が出るお店で日本酒を飲み、若者が多い場合は肉を中心に出るお店でワインなども良いかもしれません。それからめったにないと思いますがベジタリアンがいる場合は一流のホテルのレストランでその人だけベジタリアン向けの料理を頼むとよいでしょう。

接待する側と取引先が若年層の時は、居酒屋で飲むのも良いでしょう。私も昔はひざを突き合わせて政治談議や将来のことを語り合ったりしたものです。お互いに日本酒の熱爛を注ぎつ、注がれつして懇親を図ることに意義があるのです。

接待とは相手から仕事をもらう場と考える人がいますが、そうではなく、コミュニケーションがスムーズにいくように親密になる場と考えるのは私だけではないでしょう。

反面、ある人達は銀座の一流のナイトクラブで飲むのが、自分のステイタスと思っている人達もいるのです。取引先のお客を招待して、俺はいつもこのような処で飲んでいるのだと自慢したい人もいるし、客のほうでも安い酒場に招待されても喜ばない人もいます。

場合によっては、客のなじみのお店に行くことも一つの方法ですが、こちらの懐事情にも依ります。

また会社の同僚とも飲む時もあるでしょう。往々にして社内の悪口大会になりやすいのですが、建設的なアイデアが出る場でもあります。そういう時は行きつけの焼鳥屋とか居酒屋になる時が多いのですが私の場合先ずはビール、それから酎ハイですかね。

晩酌を毎日飲んでいる方もおられると思いますが、私は一切飲みません。私は体のためには、お酒は飲みたい時に飲むが、習慣化したくないとの思いがあります。たまに飲むのが楽しいので毎日飲むのは体にダメージがあり過ぎるとの思い込みがあるからです。

人はそれぞれいろんな飲み方、好きな酒があると思いますがたまには違った酒を飲むのも良いのではないのでしょうか。

このサイトでは私の経験の下、一般の人が手の届く範囲のウイスキー、ブランデー、ウォッカ、ジン、ラム、テキーラ、ワイン、ビール、カクテル類、その他洋酒、中国酒、日本酒、イモ焼酎、麦焼酎、泡盛、黒砂糖焼酎と項目順に書いていこうと思います。